

# 観光を活用した持続可能な地域づくり方針

高 山 市

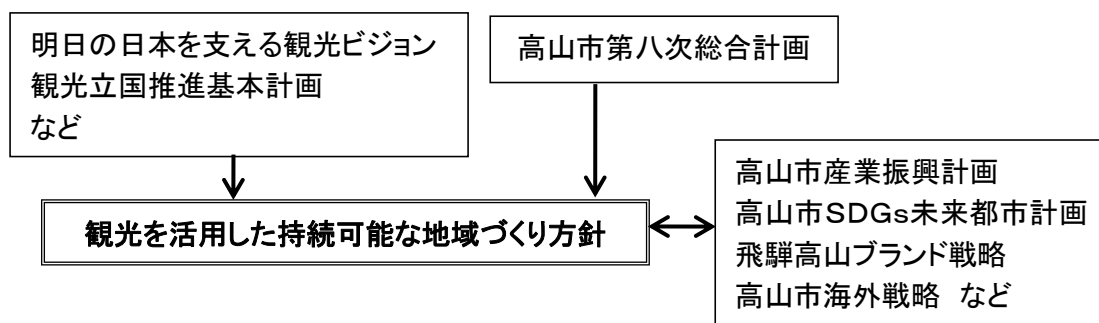
## 1. 策定の目的

高山市は昭和30年以降、飛騨民俗村の開村や乗鞍スカイラインの開通といった観光客受け入れ体制の整備や高山祭の文化財指定、三町などの伝統的建造物群保存地区指定、昭和61年の国際観光都市宣言などにより観光客の入込数が飛躍的に伸びてきました。さらに、JR高山線におけるワイドビューひだ号の導入、安房トンネルの開通、東海北陸自動車道の全線開通などの交通網の整備が進んだことに伴い、平成31年には年間470万人を超える観光客が訪れる国際観光都市として成長しました。

このように、先人たちの努力により脈々と受け継がれ、国際観光都市として成熟した飛騨高山の観光の強みを守り、高め、後世に引き継ぐとともに、異なる文化や価値観を持った旅行者との相互理解の醸成、その他、国内外の動向や社会情勢の変化へ柔軟に対応していくことにより、市のまちづくり全般に波及させていくため「観光を活用した持続可能な地域づくり方針」を策定します。

## 2. 方針の位置づけ

本方針は、国の「明日の日本を支える観光ビジョン」や「観光立国推進基本計画」、「高山市第八次総合計画」、「高山市産業振興計画」、「高山市SDGs未来都市計画」、「飛騨高山ブランド戦略」、「高山市海外戦略」との整合性を図ります。



### ※関連計画の目指す姿

#### ○高山市第八次総合計画の都市像

「人・自然・文化がおりなす活力とやさしさのあるまち 飛騨高山」

#### ○高山市産業振興計画のあるべき姿

「飛騨高山ブランドのさらなる強化と地域資源の活用により「稼ぐ力」が向上し、市内経済へ波及することにより「経済の好循環」が図られている」

#### ○高山市SDGs未来都市計画の2030年のあるべき姿

「飛騨高山特有の風土と飛騨人（先人）が生み出し、先人たちが守り、築き上げてきた自然や歴史・伝統が後世に引き継がれるとともに、それらを活かした地域経済の発展が図られ、心豊かな暮らしが営まれている、国内外から選ばれ続ける「国際観光都市 飛騨高山」の実現を目指す」

#### ○飛騨高山ブランド戦略のブランドコンセプト

「飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしが生み出す本物 それが飛騨高山ブランド」

### 3. 観光を取り巻く状況

#### 1) 国の動向

- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」の策定（H28.3）  
「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」、「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」、「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」の3つの視点を柱として掲げています。
- ・「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」の策定（R4.3）  
観光政策が、交通整備や各種施設整備、地域の文化や自然を活かしたコンテンツ整備、人材育成などを含む総合政策である点を踏まえ、観光を活用した持続可能な地域経営を進めるための示す手引きとして作成されました。
- ・「観光立国推進基本計画」の策定（R5.3）  
「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の3つのキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組むこととしています。
- ・「観光地域づくり法人の登録制度に関するガイドライン」の見直し（R5.4）  
観光地域づくり法人の目的、役割の整理や観光地域づくり法人や観光関係者の役割分担の明確化のほか、交流人口・観光消費額の拡大、訪日外国人旅行消費額単価など人数に依存しない指標設定の重要性を明記されました。

#### 2) 旅行者の動向

- ・旅行会社に頼る出発地主導型から、地域が主体的・戦略的に集客や開発を行う地域主導型（着地型）観光への転換
- ・団体旅行、モノ消費から個人・グループ旅行、コト消費への転換
- ・自然体験型ツアーの台頭やワーケーション等の新たなビジネス需要の拡大
- ・観光DXの推進による、HPやSNSなどの電子媒体を活用した観光情報へのアクセス性の向上や個人による手軽な旅行予約への移行

#### 3) 観光を取り巻く主な課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による観光客の激減や旅行形態の変化への対応など、持続的かつ柔軟な受け入れ体制の構築が必要
- ・少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響に伴う人材流出や事業規模の縮小により、人材不足が深刻化
- ・地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った民間主体の組織体制の強化が必要
- ・感染症や地震・大雨等に伴う自然災害発生時における、観光客への情報発信や安全・安心対策といった危機管理体制の強化が必要
- ・少子高齢化や新型コロナウイルス感染症などの影響により、地域活動の規模が縮小し、地域住民の手で守られてきた歴史や伝統文化、自然環境などの保護や維持が困難
- ・インバウンドの増加に伴う異なる文化や価値観を持った来訪者との共生や相互理解の醸成が必要

## 4. 高山市の強み

### 1) 高山市の強み

- ・半世紀以上に亘り取り組まれてきた誘客活動の実績や官民が一体となった体制
- ・先人たちにより脈々と受け継がれてきた優れた伝統文化、景観、食文化などの財産
- ・飛騨山脈や白山、御嶽山などに囲まれた豊かな自然から生み出される清らかな水と農林畜産物、食などの資源
- ・おもてなしの心で旅行者を暖かく迎え入れるなど、観光を支えてきた地域住民

## 5. 観光を活用した持続可能な地域づくりの目指す姿

### 1) 目的

「持続可能な地域づくりの実現」

～観光を柱にした地域経済から、

持続可能な地域づくりのために観光を活かすまち飛騨高山～

### 2) 基本方針

先人たちの努力により脈々と受け継がれてきた飛騨高山の歴史や文化、自然を市民一人ひとりが享受するとともに、裾野が広く、地域の人材・資源・産業を有効に活用できる観光の特徴を活かした地域づくりを発展させることで、国内外から選ばれ続ける、住んでよし、訪れてよしの「国際観光都市 飛騨高山」の実現を目指します

○多様な主体の参加を促し、観光の強みを取り入れた強靱な地域づくりを目指します

- ・観光を活用して様々な産業・地域・人を繋ぎ、相互の活動等への参加や役割分担の明確化を促すことで、民間の底力や地域の稼ぐ力を底上げし、持続可能な地域づくりを目指します

○観光を活用した地域資源の保護・活用や人材育成、郷土愛の醸成による活力ある地域づくりを目指します

- ・観光を活用した交流人口の拡大や地域資源の磨き上げ、多文化共生に対する理解促進、飛騨高山ブランドの共有を進めることで、地域活力を生み出し、持続可能な地域づくりを目指します

### 3) 今後のアクション

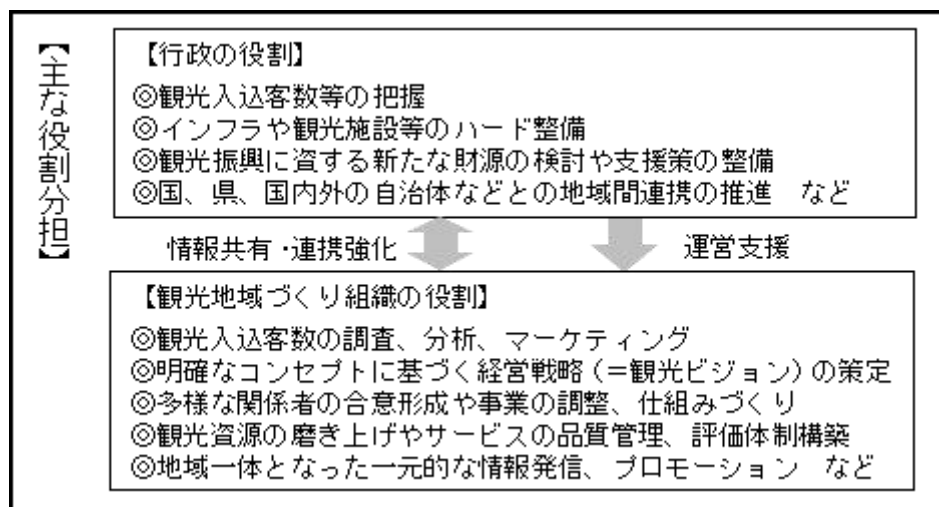
○観光を活用した持続可能な地域づくりを進める体制強化

- ・民間主体による観光地域づくり組織体制の構築支援
- ・市及び観光地域づくり組織における役割分担の明確化※1
- ・観光地域づくり組織による経営戦略（＝観光ビジョン）の作成支援

○観光を活用した持続可能な地域づくりを支える基盤強化

- ・持続可能な観光振興を支える新たな財源（宿泊税などの法定外目的税、協礼金、寄附金など）の確保
- ・既存財源（入湯税）とのあり方の整理
- ・使途の明確化や市民理解の醸成

※ 1 主な役割分担



観光を活用した持続可能な地域づくり方針

令和6年4月 策定